



上水・防食・防水用コンクリート保護塗料

NTスプレータイプU カタログ

【改訂第4版】

瞬時に強靱なウレア塗膜を形成。

厚生労働省令 第15号 / JWWA K 143 適合

「NTスプレー タイプU」は、 主剤のイソシアネート樹脂と特殊硬化剤(アミン)が反応して ポリウレア樹脂を形成する、スプレー専用の無溶剤型塗料です。

特長

1 優れた硬化性

スプレー後のゲルタイムは2~3秒と極めて短く、水平面では30秒以内の軽歩行が可能です。また、湿度による発泡はなく、氷点下(-15℃以上)でも完全硬化します。

2 優れた施工性

2液型衝突混合式スプレー塗装機により施工効率が良く、省力化に役立ちます。ゲルタイムが短いため、天井面や壁面に対し1mm以上の厚塗りがダレることなく連続で施工できます。複雑な形状にも塗装でき、膜厚が確保できます。

3 優れた品質確保

2液型衝突混合式スプレー塗装機により、適切な材料管理ができ、出来上がった塗膜の品質も安定的に確保できます。

用途

配水池、浄水池、貯水槽、沈砂池、ろ過池、受水槽、養殖場など

色相 (NTスプレー タイプU)

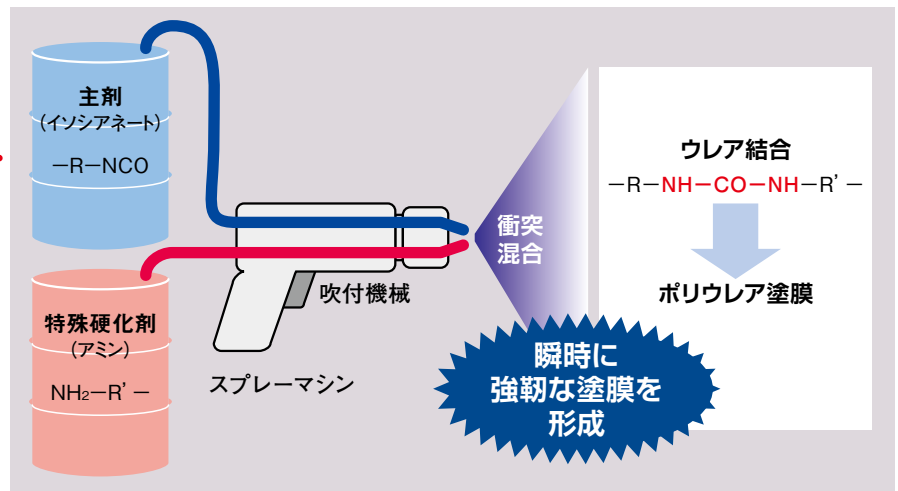


▲グレー



▲ブルー

●本標準色は印刷のため、実際の色とは相違があります。ご了承ください。



4 優れた塗膜物性

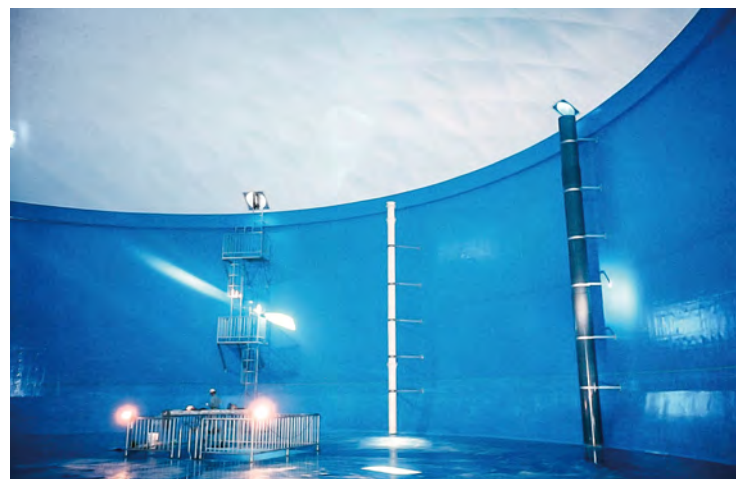
JIS A 6021屋根用塗膜防水材ウレタンゴム系高強度形に相当する高塗膜物性で、20MPa以上の引張強度、200%以上の伸びなど優れた引張特性を有します。

5 優れた安全性

日本水道協会規格JWWA K 143及び厚生労働省令15号に適合する、安全性に優れた材料です。

6 優れた耐薬品性

耐酸性、耐アルカリ性、耐塩素性に優れます(ただし、紫外線や次亜塩素酸ナトリウム水溶液には変色しますが、物性低下はありません)。



塗膜性能

試験項目		NTスプレータイプU	
引張性能	引張強さ N/mm ²	試験時温度 23℃	23
		試験時温度 -20℃	31
		試験時温度 60℃	19
	破断時の伸び率 %	試験時温度 23℃	265
	抗張積 N/mm	試験時温度 23℃	1219
		試験時温度 23℃	158
破断時のつかみ間の伸び率 %	試験時温度 -20℃	118	
	試験時温度 60℃	181	
	引裂性能	引裂強さ N/mm	86

※当社試験結果(JIS A 6021屋根用塗膜防水材ウレタンゴム系試験)であり、塗膜物性を保証するものではありません。

■NTスプレータイプU JWVA K 143 塗膜試験

	規格	NTスプレータイプU	
		ERP工法	PMM工法
外観	しわ・たるみ・割れ・へこみがない。	しわ・たるみ・割れ・へこみがない。	しわ・たるみ・割れ・へこみがない。
付着強さ N/mm ²	標準状態 1.5以上 吸水状態 1.2以上	標準状態 2.8 吸水状態 2.8	標準状態 2.4 吸水状態 2.5
耐衝撃	割れ・剥がれがない。	割れ・剥がれがない。	割れ・剥がれがない。
耐アルカリ性	膨れ・割れ・剥がれがない。	膨れ・割れ・剥がれがない。	膨れ・割れ・剥がれがない。
透水性 g	透水量 0.2以下	透水量 0.0	透水量 0.0
塩化物イオン透過度 mg/cm ² ・日	1.0×10 ⁻³ 以下	定量限界(0.32×10 ⁻³)以下	定量限界(0.32×10 ⁻³)以下
低温・高温繰り返し	割れ・剥がれがない。	割れ・剥がれがない。	割れ・剥がれがない。

■耐薬品性(6ヶ月浸漬)

薬品	耐久性
10%硫酸水溶液	○
20%硫酸水溶液	○
5%塩酸水溶液	○
10%塩酸水溶液	○
1%硝酸水溶液	○
5%硝酸水溶液	△
1%過塩素酸水溶液	○~△
5%過塩素酸水溶液	△~×
1%次亜塩素酸ナトリウム水溶液	○~△
20%クエン酸水溶液	○
1%酢酸水溶液	○
5%酢酸水溶液	○
飽和水酸化カルシウム水溶液	○
48%水酸化ナトリウム水溶液	○
20%水酸化カリウム水溶液	○
10%アンモニア水溶液	○

※試験方法: 自社試験法による。耐薬品性に対する塗膜物性を保証するものではありません。

■試験成績書

●JWVA K 143 浸出試験



▲NTスプレー タイプU ERP工法

▲NTスプレー タイプU PMM工法

●厚生労働省令15号



構成製品一覧

	製品名	色相	荷姿	組成	備考
素地調整材	ガードブルーフィラー	—	25kgセット { 主材:20kg 硬化剤: 5kg }	2成分 水性エポキシ樹脂系	—
プライマー	NTコンクリート 防食プライマーJ	●クリアー	10kgセット { 主剤:7.5kg 硬化剤:2.5kg }	2液無溶剤 エポキシ樹脂系	B液は「夏型」「一般型」「冬型」「寒冷地用」より選択。 JWWA K 143適合。 ※増粘剤が別途必要です。
	NTコンクリート 防食塗継プライマーJ	●クリアー	16.8kgセット { 主剤:16kg 硬化剤:0.8kg }	2液溶剤 アクリルウレタン樹脂系	「NTスプレータイプU」の塗り重ねや塗り継にて塗装間隔が5時間以上(23℃)空いた時、上塗りまでの塗装間隔が5時間以上(23℃)空いた時に使用。 JWWA K 143適合。
パテ	ガードブルーフ	●ブルー系 ●グレー系	15kgセット { 主剤:12kg 硬化剤: 3kg }	2液無溶剤 エポキシ樹脂系	B液は「夏型」「冬型」より選択。 JWWA K 143適合。 ※増粘剤が別途必要です。
防食材	NTスプレー タイプU	●グレー ●ブルー	41kgセット (石油缶) { 主剤:21kg 硬化剤:20kg } 410kgセット (ドラム) { 主剤:210kg 硬化剤:200kg }	2液無溶剤 ポリウレタ樹脂系	JWWA K 143適合。
上塗り	プールエース#300	●標準色 (4色)	18kgセット { A液:15kg B液: 3kg } 6kgセット { A液: 5kg B液: 1kg }	2液溶剤 ウレタン樹脂系	屋外で使用する場合の上塗り。 JWWA K 143適合。
シンナー	プールエースRシンナー	—	16ℓ、4ℓ	—	—
増粘剤	ケミベストFDSS-5	—	5kg/袋	ポリオレフィン繊維	「NTコンクリート防食プライマーJ」 「ガードブルーフ」の増粘剤として使用。

■適用温度

●NTコンクリート防食プライマーJ

B液の季型	寒冷地用	冬型	一般型	夏型
適応温度	5℃	5℃～15℃	15℃～25℃	25℃～35℃

●ガードブルーフ

B液の季型	冬型	夏型
適応温度	5℃～25℃	20℃～35℃

■推奨スプレーマシン



混合装置：リアクター H-40 (グラコ社製)
スプレーガン：P2ガン(グラコ社製)

■荷姿

●ドラム 410kgセット



硬化剤：A液(アミン)
200kg

主剤：B液(イソシアネート)
210kg

●ペール缶 41kgセット



硬化剤：A液(アミン)
20kg

主剤：B液(イソシアネート)
21kg

●推奨塗装条件

項目	条件
材料温度(主材、硬化剤、ホース)	75℃
設定液圧	5MPa以上
ガン距離	70～80cm

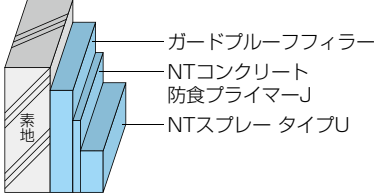


標準施工仕様

前処理	●躯体処理(漏水、段差、目違い、豆板、コールドジョイント、打ち継ぎ部、ひび割れなどの処理)や前処理(セパレーター、埋設管廻り、タラップ、取り付け金具、伸縮目地など箇所の処理)は、事前に行ってください。
下地処理	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>下地処理(新設の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンクリートの脆弱部、レイタンス突起物などは、サンダーやブラストクリーニングなどの処理で除去してください。 ●出隅部はサンダー等で丸みをもたせるように処理をし、入隅部分は必要または、状況に応じてポリマーセメントモルタル、樹脂モルタルまたは樹脂パテでアールを取ってください。 ●ゴミ、ホコリ、油脂類は、完全に除去してください。 ●下地が乾燥していることを確認してください [5ページ「下地処理(新設の場合)」を参照]。 </div> <div style="width: 48%;"> <p>下地処理(既設の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●脆弱部・劣化部・既存塗膜除去は、超高压水処理(ウォータージェットブラスト)などにて除去してください。 ●劣化部・既設塗膜除去後のコンクリート躯体表面は、骨材のゆるみや浮き、ひび割れ・漏水はあらかじめ処理してください。 ●劣化部除去後、適切な断面修復工を行ってください(躯体欠損部の処理、前処理、付着障害物処理、出隅部および入り隅部の処理が終了していることを確認してください)。 </div> </div>

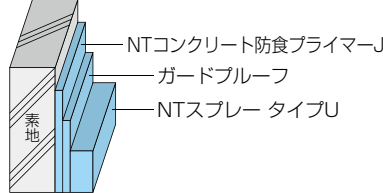
NTスプレー タイプU仕様 PMM工法

防食層2mm厚
フィルター仕様
上塗りなし



NTスプレー タイプU仕様 ERP工法

防食層2mm厚
パテ仕様
上塗りなし



ガードブルーフィルター	
材料の調合	●ガードブルーフィルター 主剤 ……20kg ●ガードブルーフィルター 硬化剤 ……5kg ●水 ……0~1kg
使用量	0.5~2kg/m ² (1~2回で)
施工間隔	18時間以上7日以内(23℃)
可使時間	1時間以内(23℃)
施工方法	コテ、ヘラ

NTコンクリート防食プライマーJ	
材料の調合	●NTコンクリート防食プライマーJ A液 ……7.5kg ●NTコンクリート防食プライマーJ B液 ……2.5kg ●ケミベストFDSS-5 ……0.4~0.8kg
使用量	0.3kg/m ²
施工間隔	12時間以上72時間以内(23℃)
可使時間	20分以内(23℃)
施工方法	コテ、ヘラ

NTコンクリート防食プライマーJ	
材料の調合	●NTコンクリート防食プライマーJ A液 ……7.5kg ●NTコンクリート防食プライマーJ B液 ……2.5kg ●ケミベストFDSS-5 ……0.4~0.8kg
使用量	0.3kg/m ²
施工間隔	12時間以上72時間以内(23℃)
可使時間	20分以内(23℃)
施工方法	コテ、ヘラ

ガードブルーフ	
材料の調合	●ガードブルーフ A液 ……12kg ●ガードブルーフ B液 ……3kg ●ケミベストFDSS-5 ……0.4~0.8kg
使用量	1.0kg/m ²
施工間隔	16時間以上72時間以内(23℃)
可使時間	40分以内(23℃)
施工方法	コテ、ヘラ

NTスプレー タイプU	
材料の調合	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ドラムの場合 ●NTスプレー タイプU 主剤 ……210kg ●NTスプレー タイプU 硬化剤 ……200kg</p> <p>■石油缶の場合 ●NTスプレー タイプU 主剤 ……21kg ●NTスプレー タイプU 硬化剤 ……20kg</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>使用量 2.0kg</p> <p>施工間隔 歩行可能時間 ……1時間以上(23℃) 養生時間 ……7日以上(23℃)</p> <p>施工方法 スプレーマシン</p> </div> </div>

耐候性仕様 *NTスプレー タイプU施工後5時間以内	
ブルエース#300	
材料の調合	●ブルエース#300 A液 ……15kg ●ブルエース#300 B液 ……3kg ●ブルエースRシンナー ……2~5kg
使用量	0.2kg/m ²
施工間隔	2時間以上72時間以内(23℃) 養生時間 ……7日以上(23℃)
可使時間	6時間以内(23℃)
施工方法	刷毛、ローラー、スプレー

- 施工上の注意点**
- 「ガードブルーフィルター」は、施工後、艶が無くなったタイミングでコテを用いて増し締めを行ってください。目安として施工後約30分程度(気温や湿度、下地の吸い込みにより変わります)。
 - 「NTスプレータイプU」は、施工後5時間以上経過すると「NTスプレータイプU」や「ブルエース#300」の付着性が著しく低下しますのでご注意ください。施工後5時間以上経過した場合は、上塗り塗装の前に、「NTコンクリート防食塗継プライマーJ」を塗布してください。
 - 素地調整材やプライマー、パテの施工が不十分な場合、ピンホールが発生しますのでご注意ください。これらの施工でピンホールをなくしてください。ピンホール対策として、「NTスプレータイプU」は複数回(2~3回)に分けて塗装してください。
 - 「NTスプレータイプU」は、下地の表面状態を反映しますので、出来る限り平滑にしてください。下地の不陸の影響により、仕上がりが平滑にならない場合があります。

注意事項

NTスプレータイプU施工上の注意事項

■下地

- コンクリート、モルタルやシーリング材以外の補修材料は、付着強さ1.2N/mm以上の強度が必要です。
- 改修の場合は、フェノールフタレインで赤色に呈色し、コンクリート付着強さが、1.2N/mm以上得られる強度が必要です。

■前処理

- 躯体処理(漏水、段差、目違い、豆板、コールドジョイント、打ち継ぎ部、ひび割れなどの処理)や前処理(セパレーター、埋設管回り、タラップ、取り付け金具、伸縮目地など箇所の処理)は、事前に行ってください。

■下地処理(新設の場合)

- コンクリートの脆弱部、レイタンス突起物などは、サンダーやブラストクリーニングなどの処理で除去してください。
- 出隅部はサンダー等で丸みをもたせるように処理をし、入隅部分は必要または、状況に応じてポリマーセメントモルタル、樹脂モルタルまたは樹脂パテでアールを取ってください。
- ゴミ、ホコリ、油脂類は、完全に除去してください。
- 下地が乾燥していることを確認してください。ERP工法の場合は含水率5%以下(高周波容量式水分計HI-500またはHI-520(楠ケツト科学研究所製)を用いて、測定レンジをコンクリートに設定して測定した数値)で施工してください。
- 下地のひび割れに追従する材料ですが、これを保証するものではありません。ひび割れの発生がないよう対策を行ってください。

■下地処理(既設の場合)

- 脆弱部・劣化部・既存塗膜除去は、超高压水処理(ウォータージェットプラスト)などにて除去してください。
- 劣化部・既存塗膜除去後のコンクリート躯体表面は、骨材のゆるみや浮き、及びひび割れ・漏水はあらかじめ処理してください。
- 劣化部除去後、適切な断面修復工を行ってください(躯体欠損部の処理、前処理、付着障害物処理、出隅部および入り隅部の処理が終了していることを確認してください)。

■塗料の施工

- 記載の仕様は標準施工仕様です。施工環境、施工条件、下地の凹凸などにより、使用量は増減します。
- 規定量を1回で塗布できない場合や、膜厚が薄いところについては複数回塗りをしてください。
- 塗装間隔(硬化乾燥時間)は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより変わります。
- 結露や強風が予測される場合や気温5℃以下、35℃以上、湿度80%以上での施工は避けてください。屋外施工では翌日までに降雨、降雪が予想される場合の施工は避けてください。塗膜硬化乾燥中に水分の影響を受けると艶引け、造膜不良、白化、付着不良、変色などの現象が発

生し、仕上りが悪くなるばかりか性能が発揮されませんので、硬化乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。

- 材料は直射日光を避け、室温5℃以下、35℃以上にならない屋内で保管してください。
- 「NTスプレータイプU」は、水道用消毒剤(次亜塩素酸ナトリウム等)や紫外線などの影響によって黄変します。そのため、施工後、色合いが異なることがありますので、ご承知おきください。
- 「NTスプレータイプU」は、水道用消毒剤(次亜塩素酸ナトリウム等)や紫外線などの影響によって黄変します。そのため、施工後、色合いが異なることがありますので、ご承知おきください。また、それらの影響により塗膜表面がチョーキング(白垂化)することがあります。黄変やチョーキングは、塗膜のごく表層にて発生する変化であり、これによって塗膜の物性が低下することはなく、防食性能は維持されます。
- できるだけ皮膚に触れないように取り扱っていただき、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋などの保護具を着用してください。
- 換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 「NTスプレータイプU」は、厚生省令15号およびJWWA K 143の浸出性試験に合格した材料ですが、無臭の材料ではありません。また、他の材料もシンナーを含有しているものもあります。そのため施工時および施工後の換気を徹底してください。
- 施工現場の条件が上記条件を外れる場合、施工を取りやめるか、ジェットヒーター、送風機、スポットクーラー、除湿機などを用いて、施工現場、および材料の温湿度を適正な状態に保つように処理を行ってください。塗装材料は危険物となりますので、養生含め、取り扱いには十分に注意してください。
- プライマーや素地調整材、パテ、上塗りは、気温が低い場合は塗膜の硬化乾燥に時間がかかり施工間隔が変わります。塗装後、夜間に気温が低下し、硬化乾燥が遅くなる場合があります。特に5℃以下になりますと硬化速度が遅くなりますので、塗装後の養生温度にはご注意ください。
- 「NTコンクリート防食プライマー-J」や「ガードブルーフ」などのエポキシ樹脂系は、空気中の水分により白化します。特に冬期や梅雨の期間は発生しやすくなります。湿度、温度管理には十分に気をつけてください。
- 夏場の高温時には、塗料のポットライフや硬化時間が短くなります。塗料は、直射日光の当たらない、日陰に保管し、気温の低い時間帯に施工してください。
- 本製品は、揮発成分を含んでいます。自然換気ができない密室、ピットなどの施工においては強制換気が必要となります。適用法令に従い適切な換気装置の設置、作業主任者の選任、送気マスクや有機ガス用防毒マスクなどの保護具の着用など、適切な対応をしてください。
- 揮発成分等の蒸発や樹脂の臭気などが周辺にある物に付着する場合があります。塗装周辺のもの室内から移動し、臭いがつかないような対策を行ってください。
- 研削機などの使用により騒音や粉じん、振動が発生し苦情が発生する場合があります。騒音や粉じん対策を充分に行い、必要に応じて元請け

や施工主、近隣に説明して了解を得てください。

- 施工後、硬化乾燥中に昆虫やゴミなどが付着する場合がありますので対策を行ってください。
- 規定の塗布量が塗られていないと、塗膜性能が発揮されない場合がありますので仕様書の塗布量を守って塗装してください。
- ホースの全長に見合った場所にスプレーマシンと材料を確保し、飛散対策の養生を充分に行い施工してください。
- 屋上など建物外部での施工中は、空調設備・換気設備の運転を停止し、吸気口等からの室内への流入を防止してください。
- 「NTスプレータイプU」の施工前には、スプレーマシン内(シリンダーポンプおよびホース)に残っている材料や古い材料の入替えを必ず行ってください。
- 「NTスプレータイプU」の施工前には必ず設定温度まで加温して適正な粘度と吐出量(吐出圧:吹付け施工中は主剤と硬化剤の吹付け圧力差が1MPa以内であることを確認してください)に調整してください。
- 「NTスプレータイプU」の施工前には、試し吹きを行い適切にスプレーマシンが稼働することを確認してください。
- 塗料の種類により攪拌機の選定を行なってください。攪拌の際には泡が立たないように注意して行ってください。回転数が速い、羽の形状が違うなどの条件によっては、混合攪拌中に泡を巻き込み施工後にも泡が残ることがあります。また、攪拌時間が長すぎても泡の発生につながります。
- 塗料は調合前に電動攪拌機などで十分に攪拌してください。その後、2液反応硬化タイプの材料、A液とB液、シンナーは秤を使用し指定の割合で調合して、電動攪拌機などで混合攪拌してください。
- 無溶剤型塗料の場合、A液(主剤)、B液(硬化剤)は規定通り計量し混合しないと硬度が発現しなかったり、べたつきが残ったりするなどの硬化不良が発生しますのでご注意ください。硬化不良が発生した塗膜は除去して、再施工してください。
- 塗料中に仕様書に規定された以上のシンナー量を調合した場合、硬度低下など、正常な塗膜物性が得られませんのでご注意ください。特に無溶剤塗料の場合は、硬化不良の原因にもなりますので注意が必要です。
- 塗料を小分けして使用する場合は、予め塗料缶の内容物を均一になるように攪拌してから小分けを行い、秤を用いて計量して塗料の調合を行ってください。
- 塗料の希釈は必ず指定のシンナーをご使用ください。シンナーの種類によっては粘度低下が激しくなったり、乾燥速度に違いが生じたり、また本来の色や艶がでない場合があります。
- 塗料には、湿気と反応する成分が含まれているものもあります。貯蔵の際は密栓し、冷暗所に保存してください。また開栓後はできるだけ早くにご使用ください。
- 角缶内でA液(主剤)、B液(硬化剤)など、複数の

材料を混合攪拌する時は、缶の隅や底、側面の材料が混合されていない場合があります。注意して攪拌を行ってください。

- 下地に勾配がある箇所や壁面、天井については、施工した塗料が流れたり、硬化途中で塗膜がズしたり、シワが発生したりする場合があります。勾配がある面に施工する場合は、増粘材(ケミベスFDSS-5)を使用して、流れたり垂れたりしないように塗料の調整を行ってください。
- 一度調合した塗料は必ず可使時間内に使い切るようにしてください。可使時間を過ぎた塗料は使用しないでください。作業性、付着力の低下や仕上りが悪くなるなど、塗料の性能が発揮されない原因になります。なお、可使時間は、材料温度と雰囲気温度に依存します。夏場は特に短くなりますのでご注意ください。
- エポキシ樹脂やウレタン樹脂など塗装間隔を一定以上経過した場合は、次工程の塗料の付着が低下します。塗装間隔を守って塗装してください。また塗装間隔が、仕様書に規定された時間以上経過した場合は、目粗しなどの表面処理や

プライマーなどを塗装する必要があります。詳細は、最寄りの営業所にお問い合わせください。

- 作業場所(計量、混合、攪拌など)は、養生シートを敷き、材料がこぼれたらすぐに除去してください。缶の底に未混合の材料が付着し、施工面に付着した場合、その部分が硬化不良となります。
- 未混合のA液(主剤)やB液(硬化剤)が施工面にこぼれた場合、きれいに除去してください。その部分が硬化不良や剥離の原因となります。
- 塗装した塗膜が乾燥しないうちに塗り重ねをすると、縮みや割れ、再溶解、乾燥不良などの異常が発生する恐れがありますので塗り重ね時間は、既定の施工間隔の中で長めにとってください。
- プライマー、パテ、防食材、上塗りを問わず、塗料は塗り残しのないように塗装してください。
- 2液塗料など多液成分の塗料は、混合した材料は直ちに施工面に、塗り面積に対して適切な量を流し、塗り広げてください。缶中にて放置すると、発熱反応により缶中の温度が上昇し、可

使時間が短くなるばかりでなく危険です。

- 施工は、金ゴテを使用し、コテムラや厚みムラができないように施工してください。
- 塗装膜厚が薄いところについては複数回塗り増しをし、規定膜厚を確保してください。
- 通水までの養生は、23℃にて7日以上行ってください。冬期など硬化乾燥が遅くなる場合はさらに長く養生を行ってください。
- 「NTスプレー タイプU」は、施工時に塗料ミストが発生しますので、施工後は、塗布面の洗浄が必要です。高圧水洗により、入念な洗浄を実施してください。その後に水張り、水替えを行ってください。
- 既設コンクリートでは、劣化部・既設塗膜の除去や、断面修復などが必要となりますので、別途最寄りの営業所にお問い合わせください。
- JWVA K 143「水道用コンクリート水槽内面エポキシ樹脂塗料」の附属書D「施工方法」についてもご参照いただき、施工してください。

取り扱い上の注意事項 (よく読んでご使用ください)

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合は、ABC粉末消火器を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器は吊り上げないでください。止むを得ず吊り上げるときには、適切な吊り具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください(偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります)。
- 取り扱い後は手洗い、うがいを充分に行ってください。
- 目に入った場合は、ただちに多量の水で少なくとも5分以上洗い、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 誤って口に入った場合は、口を水でよくすすぎ

すみやかに医師の手当てを受けてください。飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けてください。

- 材料が皮膚に付着した場合は、多量の水で洗い流したのち中性石鹸と水で十分に洗ってください。痛みや腫れなど外観変化があるときは医師の診察を受けてください。作業着などに付着した場合は、すみやかに着替えを行ってください。
- エポキシ樹脂系塗料など塗料によっては体質により皮膚障害などの感作を受ける場合があります。感作された場合、その後の当該物質にばく露されることにより再度皮膚障害などの障害を引き起こす場合があります。このため、医師の指導を受け健康障害防止のために必要な措置を講じてください。
- 皮膚障害、呼吸障害がみられる場合は、医師の診断を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 保管は必ずフタをし、直射日光を避け、雨や雪などにより水に濡れないような、室温5℃以下、35℃以上にならない屋内で保管してください。水系塗料は凍結を避けてください。
- 「NTスプレー タイプU主剤」や「NTコンクリート防食塗継プライマーJ硬化剤」、「プールエー

ス#300B液」は水分と反応し固まります。保管中や休憩中は必ずフタをしてください。

- 溶剤塗料などのフタを開ける際は、溶剤などの影響缶の内圧が上っている場合があります。開栓時は、充分に気を付けてください。
- 現場で材料を保管する場合は、直射日光や雨露が当たらない、風通しの良い場所で保管してください。特に夏場、車内での保管や高温になる場所での保管は危険ですので避けてください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 化学物質過敏症の人は塗料に含有している化学物質(VOC等)に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 危険物に該当する製品については、消防法などの法規制に従い保管を行ってください。
- 製品の取扱い、保管については、労働安全衛生法など各種法令を遵守してください。
- 詳細は警告ラベル、または安全データシート(SDS)をご参照ください。

*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください。

日本特殊塗料株式会社

■お問い合わせ先

東京営業所	〒114-8584 東京都北区王子3-23-2	☎(03)3913-6203	FAX(03)3913-6323
神奈川営業所	〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10	☎(0463)23-2135	FAX(0463)23-3739
中部営業所	〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12	☎(0566)81-8111	FAX(0566)81-8124
大阪営業所	〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12	☎(06)6386-8492	FAX(06)6338-3560
中四国営業所	〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231	FAX(082)423-8256
九州営業所	〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766	FAX(0942)89-5762

● 日本特殊塗料ホームページ <https://www.nttoryo.co.jp/>

■代理店